

甲賀市地域福祉に関する市民アンケート調査 (結果速報)

平成27年12月
甲 賀 市

＜調査の概要＞	2	(10) ボランティア活動の参加状況	11
＜調査結果の概要＞	3	(11) ボランティア活動に参加している理由	12
(1) 性別・年齢別	3	(12) ボランティア活動に参加していない理由	13
(2) 居住地区	4	(13) ボランティア活動を発展させるために 必要なこと	14
(3) 家族構成	5	(14) 居住地区の生活環境	15
(4) 同居家族に子どもがいるか	6	(15) 地域の課題	16
(5) 同居家族に高齢者がいる	6	(16) 住民自身が福祉活動を推進していくた めに必要なこと	20
(6) 居住年数	7	(17) 市が重点を置くべき福祉施策	21
(7) 現在の地域で暮らしていきたいと思うか	8	(18) 社会福祉協議会事業の認知度	22
(8) 近所づきあい	9	(19) 社会福祉協議会の活動に期待すること	23
(9) 相談相手	10		

＜調査の概要＞

(1) 調査の目的

この調査は、地域福祉計画を策定するための基礎資料を得ることを目的として、市内にお住まいの20歳以上の人を対象に実施しました。調査内容は、地域活動の状況、地域の課題、地域福祉活動推進のために必要なこと、社会福祉協議会の活動などについてです。

(2) 調査方法

調査対象者	市内にお住まいの20歳以上の人
抽出方法	無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収
調査基準日	平成27年10月1日
調査期間	平成27年10月22日～平成27年11月13日

(3) 回収結果

配 布 数	有効回答数	有効回答率
3,000	1,367	45.6%

(4) 図表の見方

- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（N）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。
- ③ 有効回答とした中には、年齢、性別、居住地等の不詳があります。したがって、全体の回答数と属性別の回答数の合計が一致しない場合があります。
- ④ 図表中「平成17年」とあるのは平成17年12月に実施した「甲賀市民の暮らしと地域福祉に関する意識調査」、「平成27年」とあるのは今回の調査を示します。
- ⑤ 図表中に用いた地域と小学校区との関係は次のとおりです。

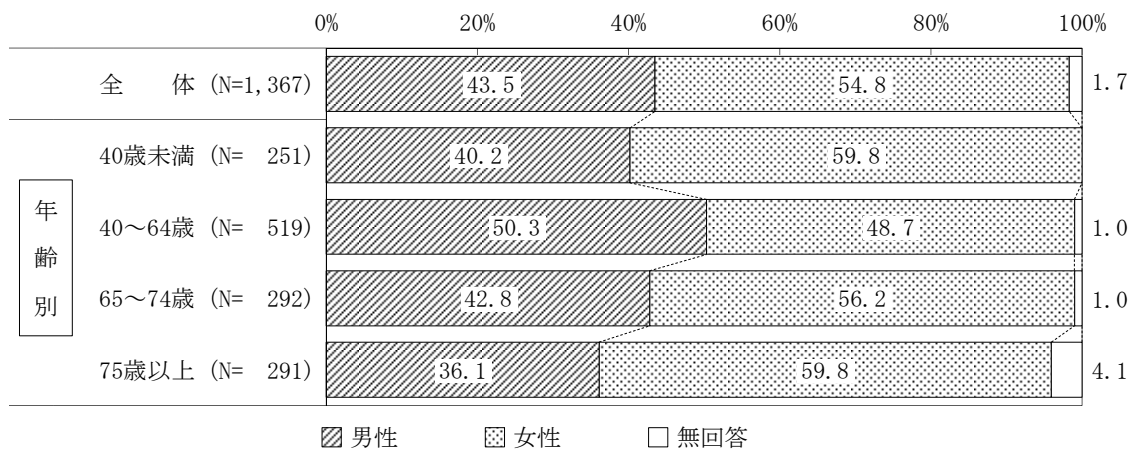
地 域	小 学 校 区
水口地域	伴谷／伴谷東／柏木／水口／綾野／貴生川
土山地域	大野／土山／山内／鮎河
甲賀地域	大原／油日／佐山
甲南地域	甲南第一／甲南第二／甲南第三／甲南中部／希望ヶ丘
信楽地域	信楽／雲井／小原／朝宮／多羅尾

<調査結果の概要>

(1) 性別・年齢別

回答者の性別は、「男性」が43.5%、「女性」が54.8%となっています。年齢別にみると、40～64歳は「男性」がやや高く、その他の年齢層はすべて「女性」が高くなっています。

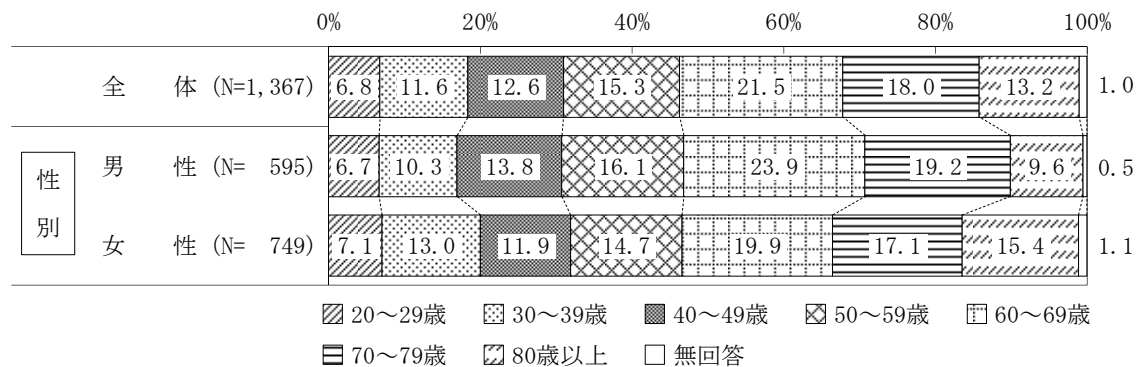
図表 1 性別



回答者の年齢は、「60～69歳」が21.5%と最も高く、次いで「70～79歳」(18.0%)となっています。これに「80歳以上」を加えた＜60歳以上＞は52.7%を占めています。

性別にみると、男女ともに「60～69歳」「70～79歳」が高く、男性は女性に比べて「60～69歳」が最も高く、女性は男性に比べて「80歳以上」が最も高くなっています。

図表 2 年齢別

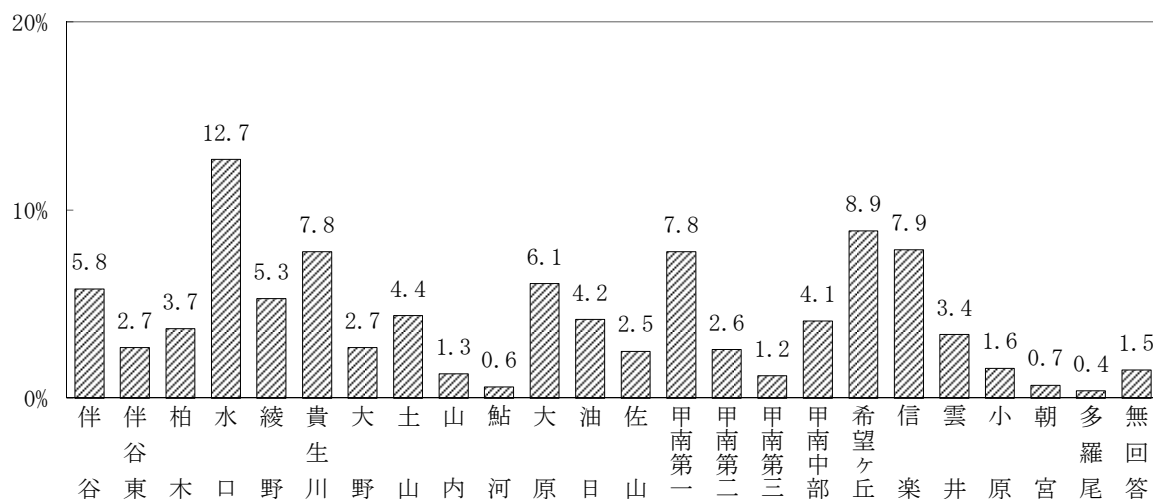


(2) 居住地区

回答者の居住地区を小学校区別にみると、「水口」が12.7%と最も高くなっています。次いで「希望ヶ丘」「信楽」「甲南第一」「貴生川」「大原」「伴谷」「綾野」の順となっており、その他の小学校区は5%以下です。

図表3 小学校区

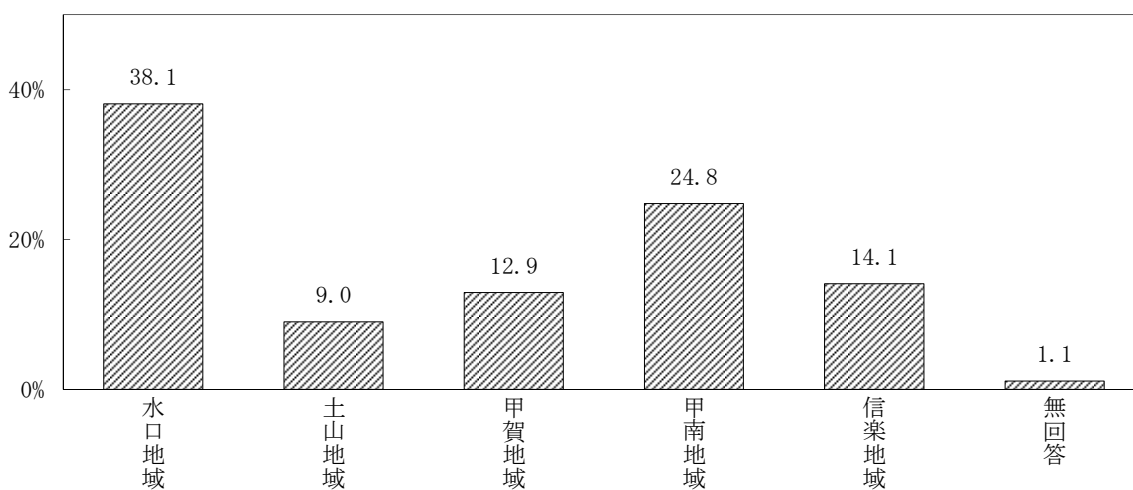
N=1,367



回答者の居住地域（5地域）別の割合は次のとおりです。

図表4 地域別

N=1,367



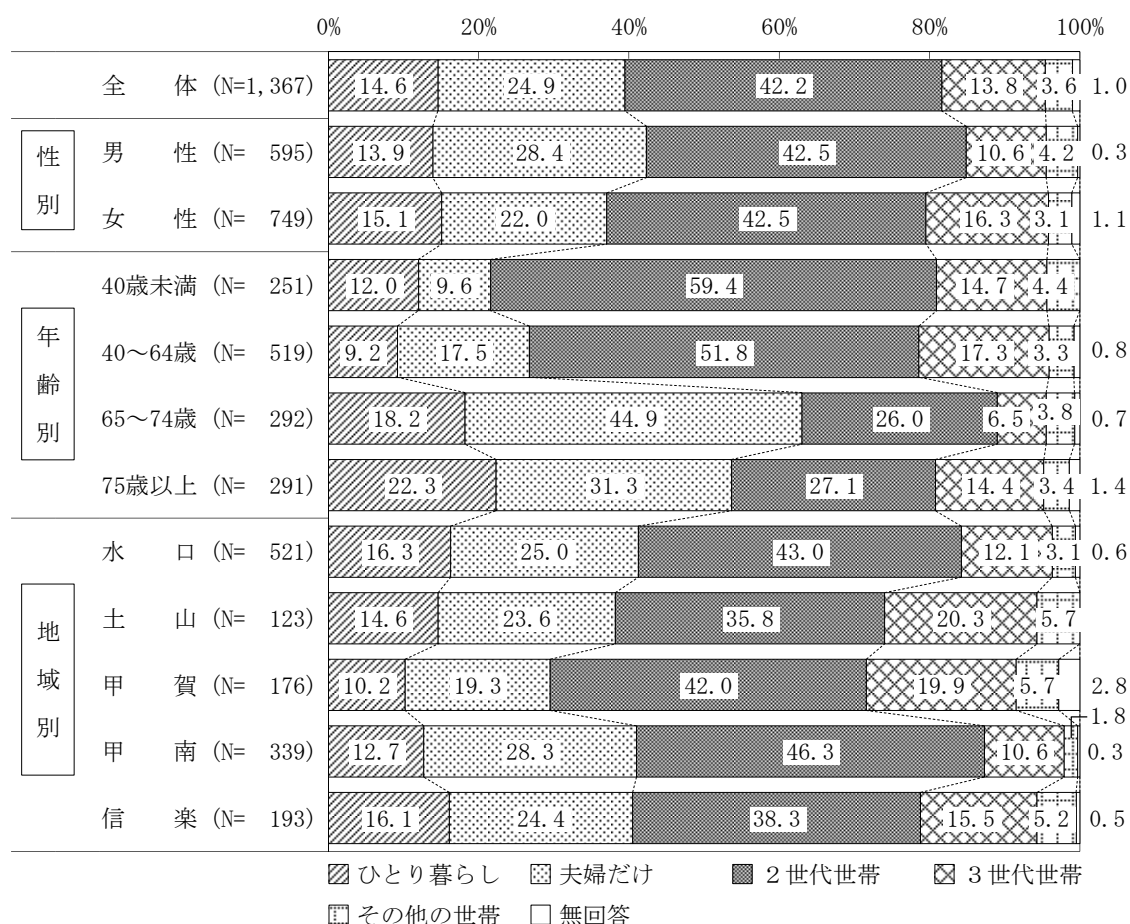
(3) 家族構成

家族構成は、親と子の「2世代世帯」が42.2%を占めています。次いで「夫婦だけ」が24.9%、「ひとり暮らし」が、14.6%となっています。

年齢別にみると、40歳未満、40～64歳は「2世代世帯」が50%以上を占め、65～74歳、75歳以上は「夫婦だけ」が最も高くなっています。

地域別にみると、いずれの地域も「2世代世帯」が最も高く、甲賀以外は「夫婦だけ」が2番目に高くなっています。甲賀は祖父母と親と子の「3世代世帯」が2番目に高くなっています。5地域の中で「2世代世帯」が最も高いのは甲南、「夫婦だけ」が最も高いのも甲南です。「ひとり暮らし」は水口、信楽が16%台と高く、甲賀が10.2%と最も低くなっています。「3世代世帯」は土山、甲賀が20%前後と比較的高く、甲南が10.6%と最も低くなっています。

図表5 家族構成

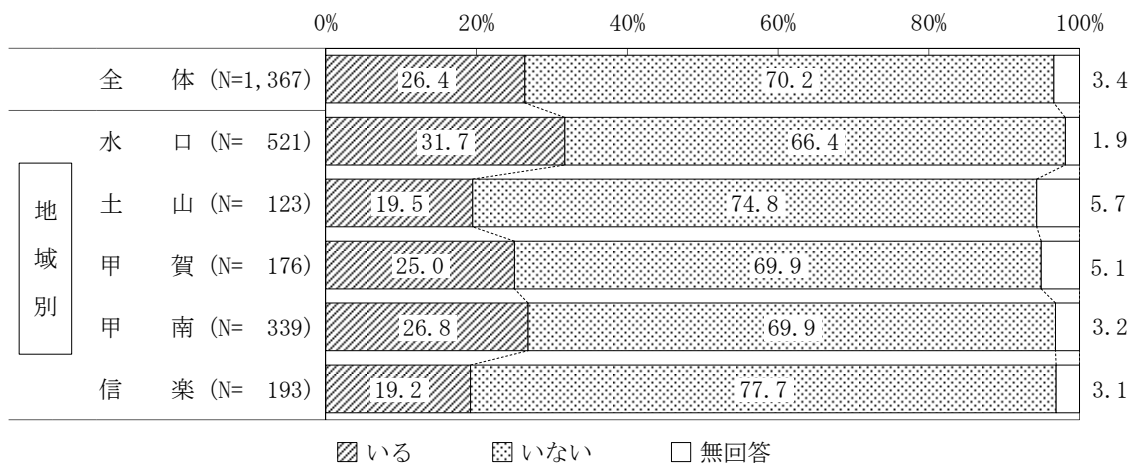


(4) 同居家族に子どもがいるか

同居している家族の中に、高校生までの子どもが「いる」世帯は26.4%です。

地域別にみると、「いる」は水口が31.7%と最も高く、次いで甲南、甲賀の順となっています。土山、信楽は20%を下回っています。

図表6 同居家族に高校生までの子どもがいるか

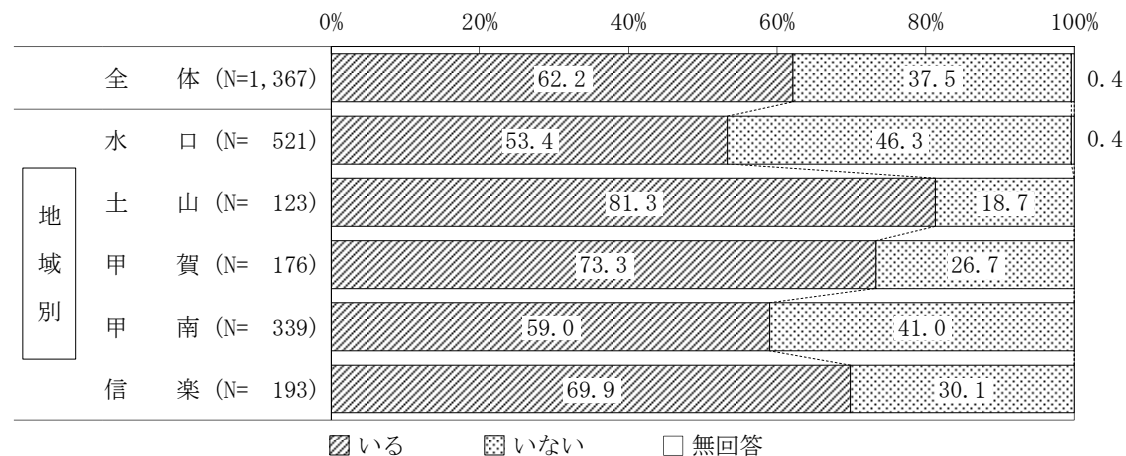


(5) 同居家族に高齢者がいるか

同居している家族の中に65歳以上の高齢者が「いる」世帯は62.2%です。

地域別にみると、土山が81.3%と最も高く、次いで甲賀、信楽の順となっています。水口、甲南は60%を下回っています。

図表7 同居家族（本人を含む）に高齢者がいるか

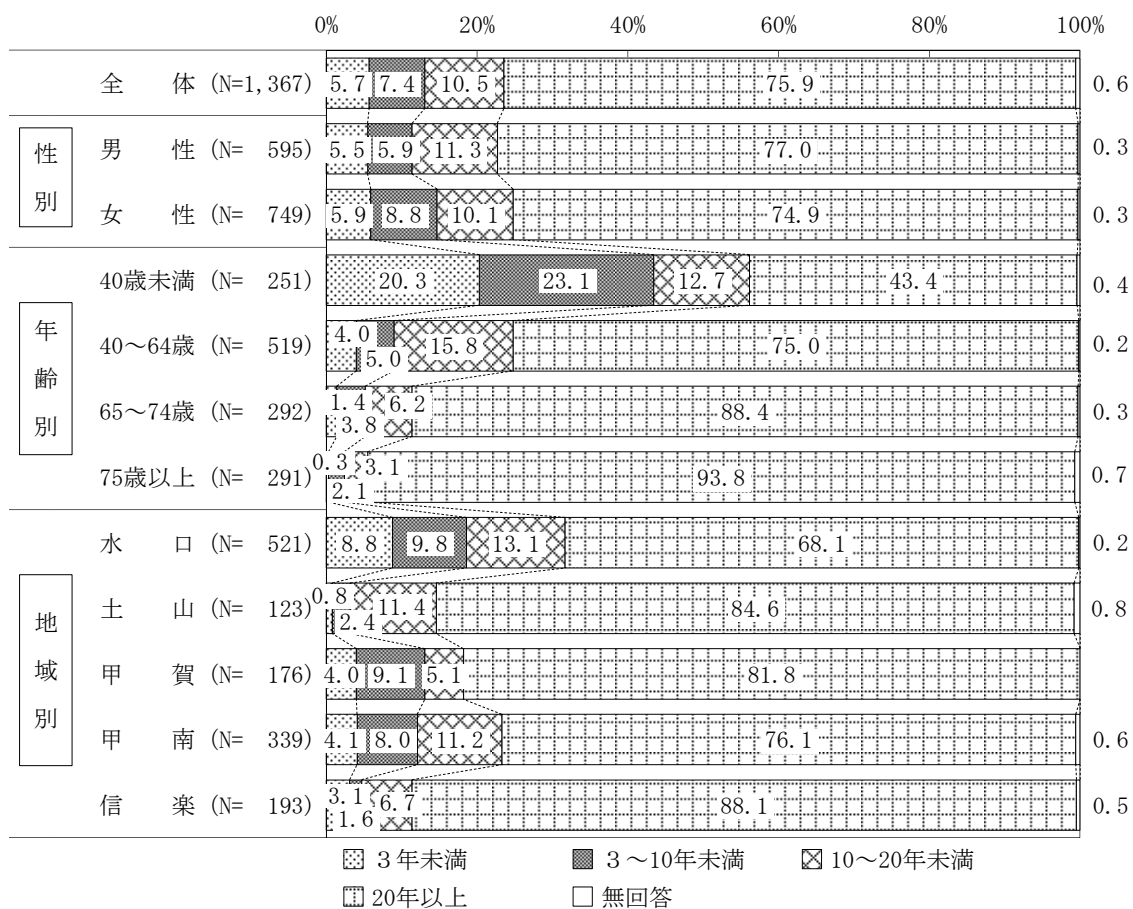


(6) 居住年数

「あなたは、甲賀市（旧町を含む）にお住まいになられて通算何年になりますか」という設問に対しては、「20年以上」が75.9%を占めています。

「20年以上」は、性別では男性が女性より2.1ポイント高く、年齢別では年齢が上がるほど高くなり、75歳以上では93.8%を占めています。地域別にみると、信楽が88.1%と最も高く、土山、甲賀も80%以上です。最も低いのは水口で70%を下回っています。

図表 8 居住年数



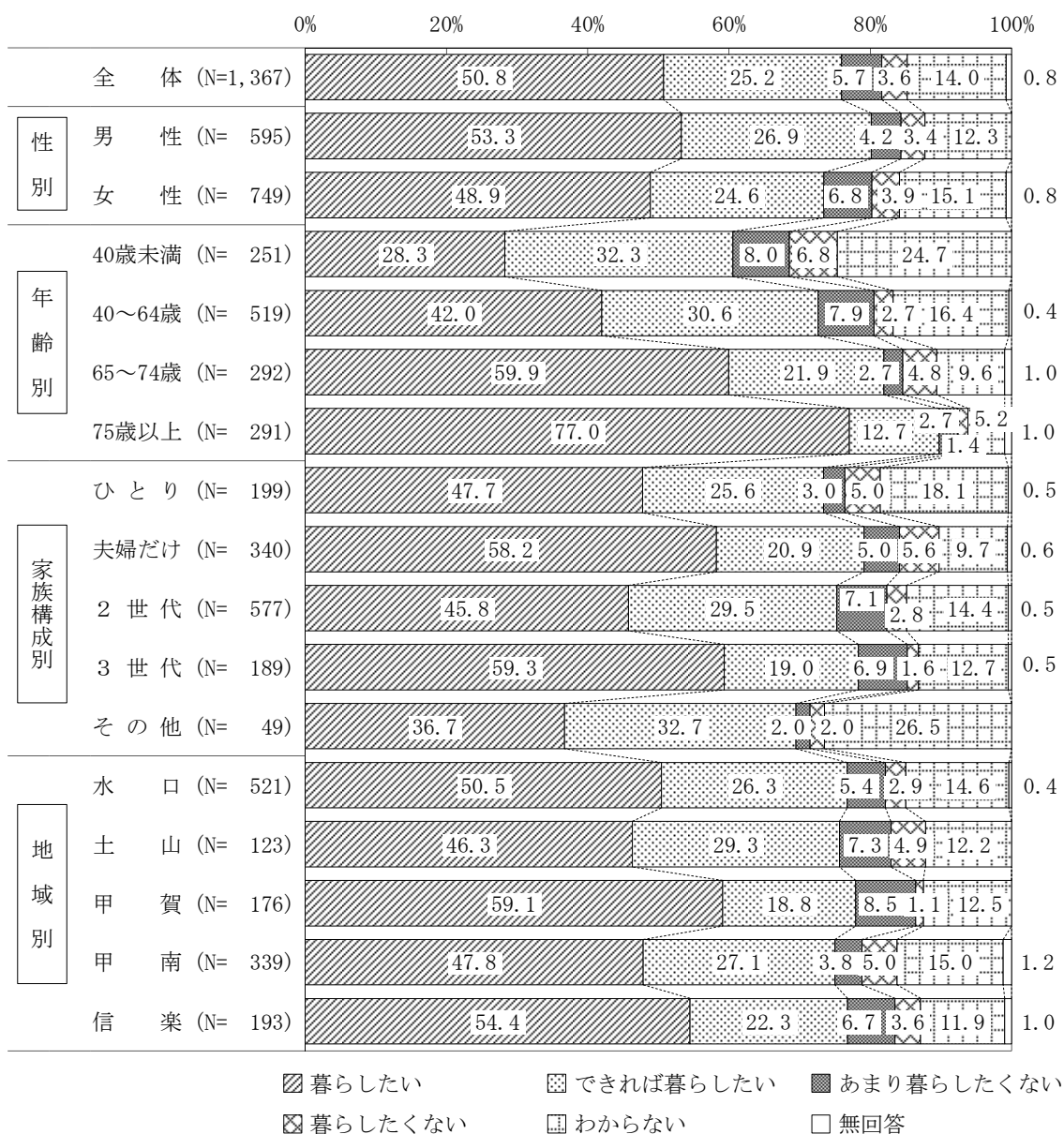
(7) 現在の地域で暮らしていきたいと思うか

将来も現在の地域で暮らしていきたいと思うかをたずねたところ、50.8%が「暮らしたい」と答えています。これに「できれば暮らしたい」を加えた＜暮らしたい＞は76.0%です。

「あまり暮らしたくない」「暮らしたくない」を合計した＜暮らしたくない＞は9.3%となっています。

＜暮らしたい＞が高いのは、性別では男性、年齢別では年齢が上がるほど高くなり、75歳以上では89.7%となっています。家族構成別、地域別による大きな差はみられません。

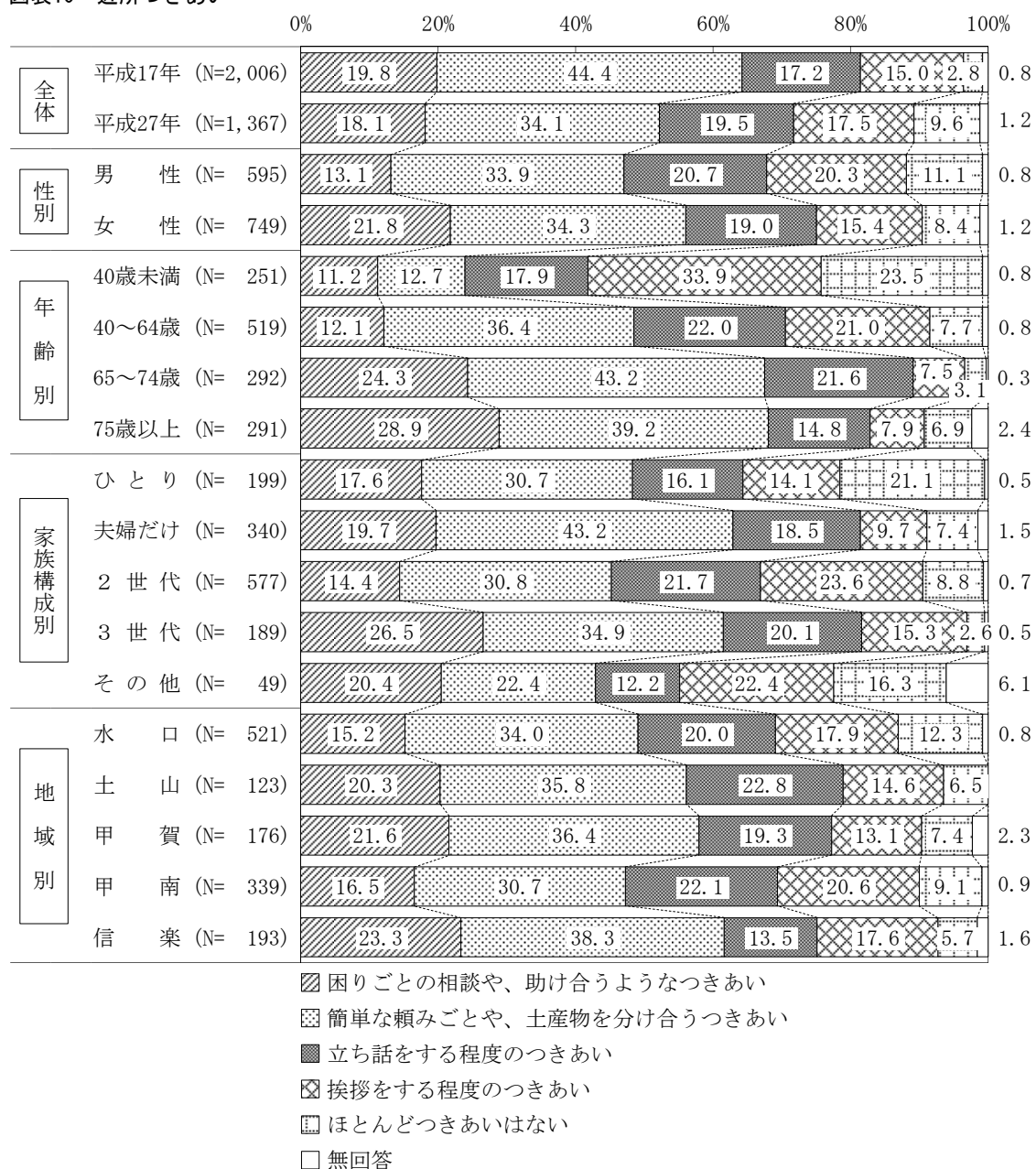
図表9 現在の地域で暮らしていきたいと思うか



(8) 近所づきあい

「あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか」という設問に対しては、「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が34.1%と最も高くなっています。これに「困りごとの相談や、助け合うようなつきあい」を加えたものを＜濃いつきあい＞とすると、52.2%となります。「ほとんどつきあいはない」は9.6%です。平成17年調査と比べると、＜濃いつきあい＞は12.0ポイント低くなり、「ほとんどつきあいはない」が6.8ポイント高くなっています。

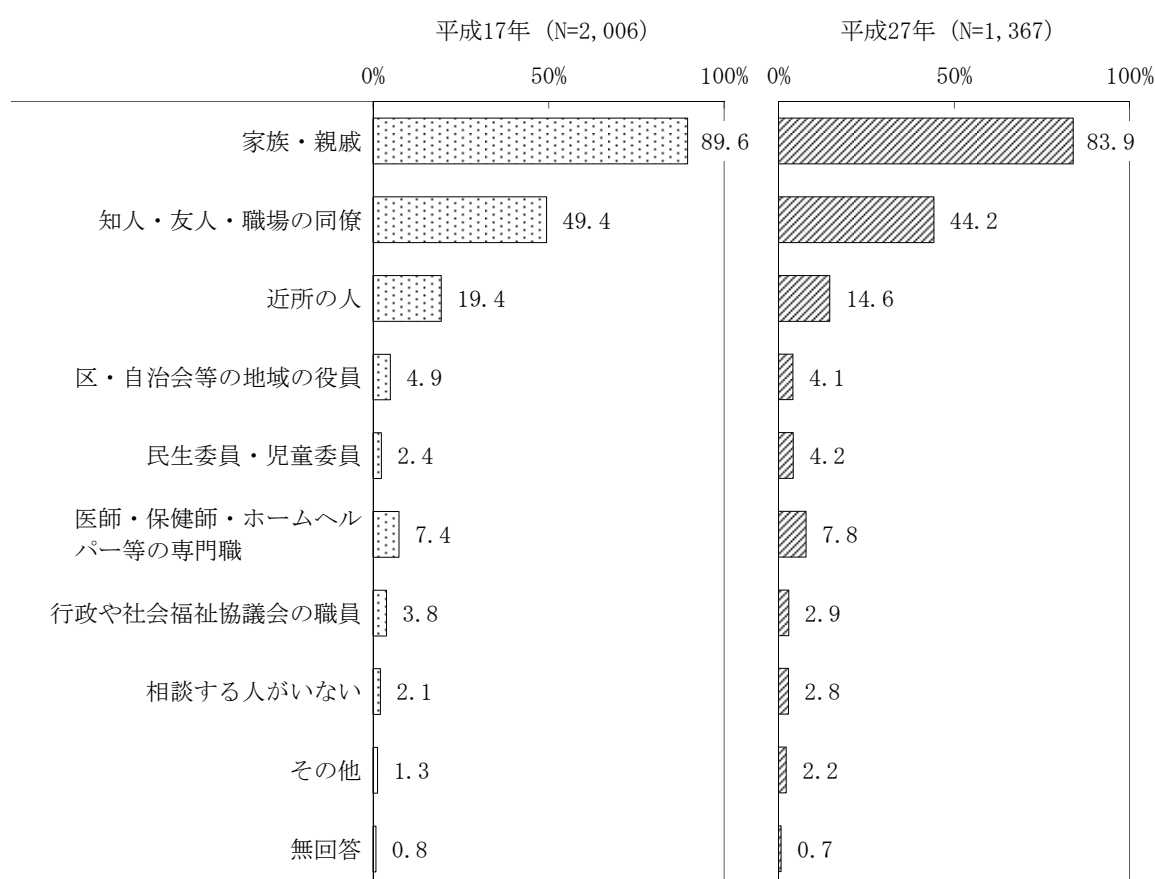
図表10 近所づきあい



(9) 相談相手

生活の困りごとについて相談する相手としては、「家族・親戚」が83.9%と最も高く、「知人・友人・職場の同僚」も40%台の比較的高い割合です。「相談する人がいない」は2.8%と低いものの、人数としては38人あります。平成17年調査と比べると、ほぼ同様の傾向となっていますが、全般的に平成27年の割合が低くなっています。高くなっているのは「民生委員・児童委員」「医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職」などです。

図表11 相談相手（複数回答）



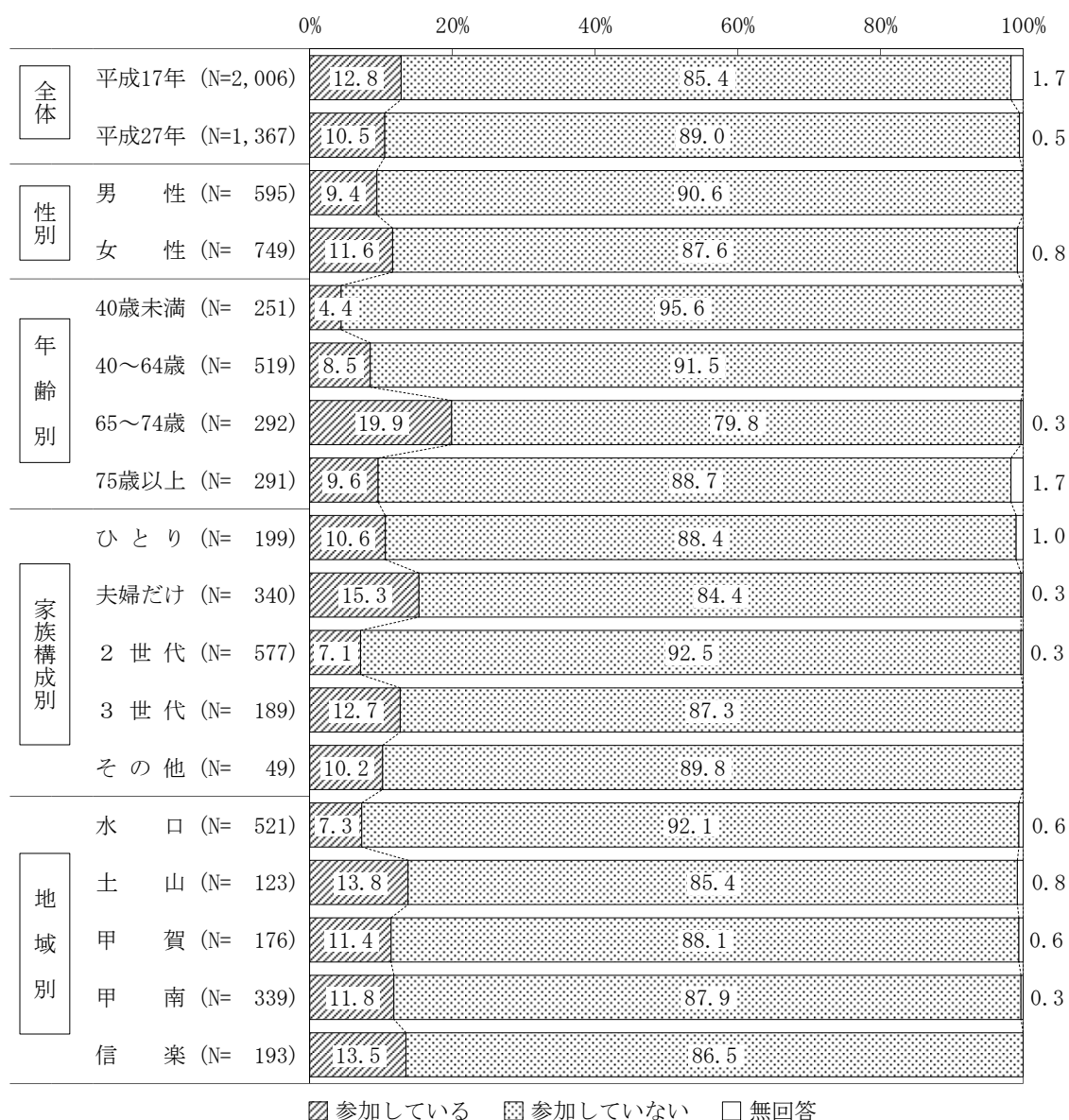
(10) ボランティア活動の参加状況

図表12はボランティア活動の参加状況をたずねた結果です。ここでいうボランティア活動とは、たとえば自治会活動や女性会・子ども会活動などのような地域にある組織で行う活動ではなく、個人の自発性・自主性に基づいて行われる活動をいいます。

「参加している」は10.5%となっており、平成17年調査に比べると2.3ポイント低下しています。

「参加している」が高いのは、性別では女性、年齢別では65～74歳、家族構成別では夫婦だけ、地域別では土山、信楽となっています。

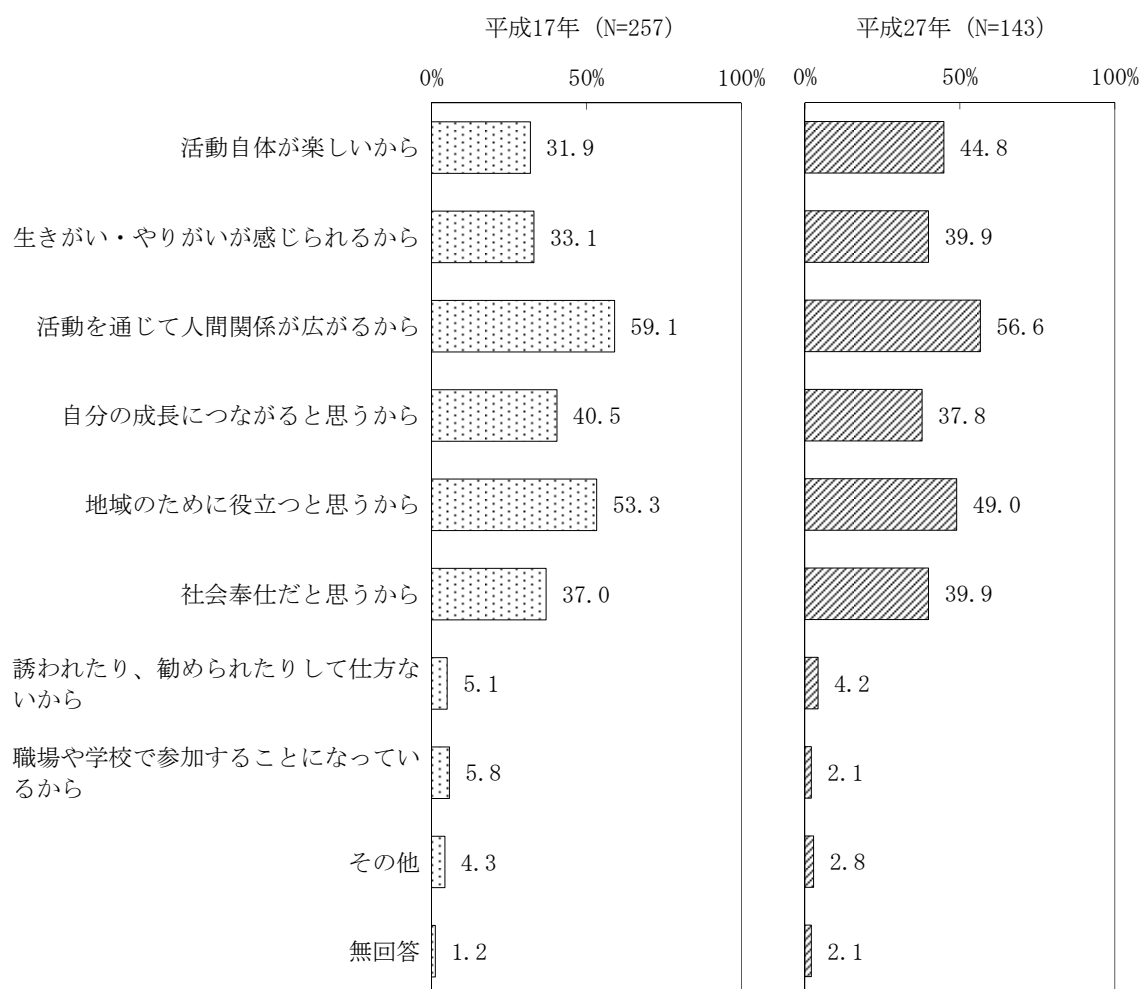
図表12 ボランティア活動の参加状況



(11) ボランティア活動に参加している理由

ボランティア活動に「参加している」と答えた143人に、ボランティア活動に参加している理由をたずねたところ、「活動を通じて人間関係が広がるから」が56.6%と最も高くなっています。「地域のために役立つと思うから」「活動自体が楽しいから」も40%を上回っています。平成17年調査と比べると、「活動自体が楽しいから」が12.9ポイント高くなっているのが特徴としてあげられます。

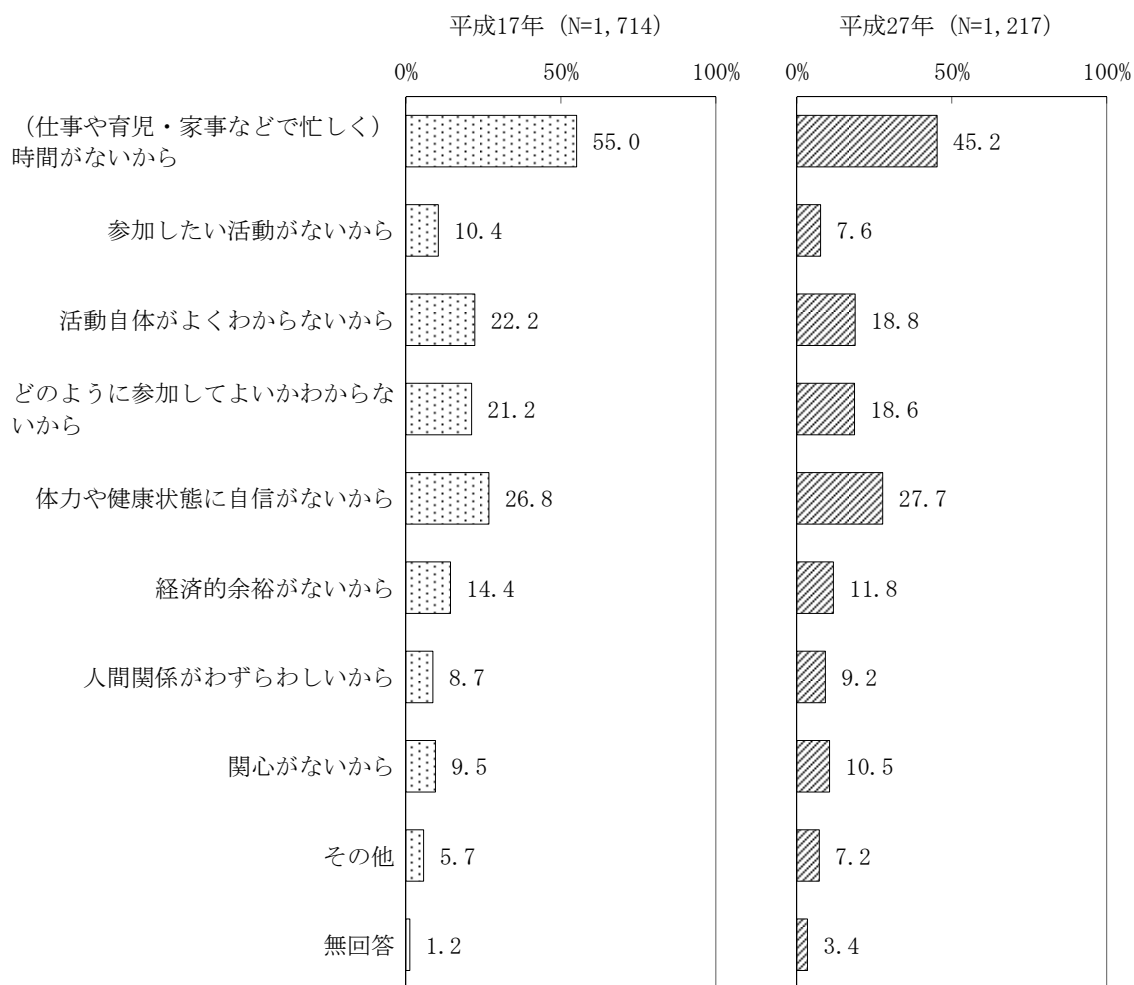
図表13 ボランティア活動に参加している理由（複数回答）



(12) ボランティア活動に参加していない理由

ボランティア活動に「参加していない」と答えた1,217人に、その理由をたずねたところ、「(仕事や育児・家事などで忙しく) 時間がないから」が45.2%と最も高くなっています。「体力や健康状態に自信がないから」も20%以上の比較的高い割合となっています。平成17年調査とほぼ同様の傾向となっています。

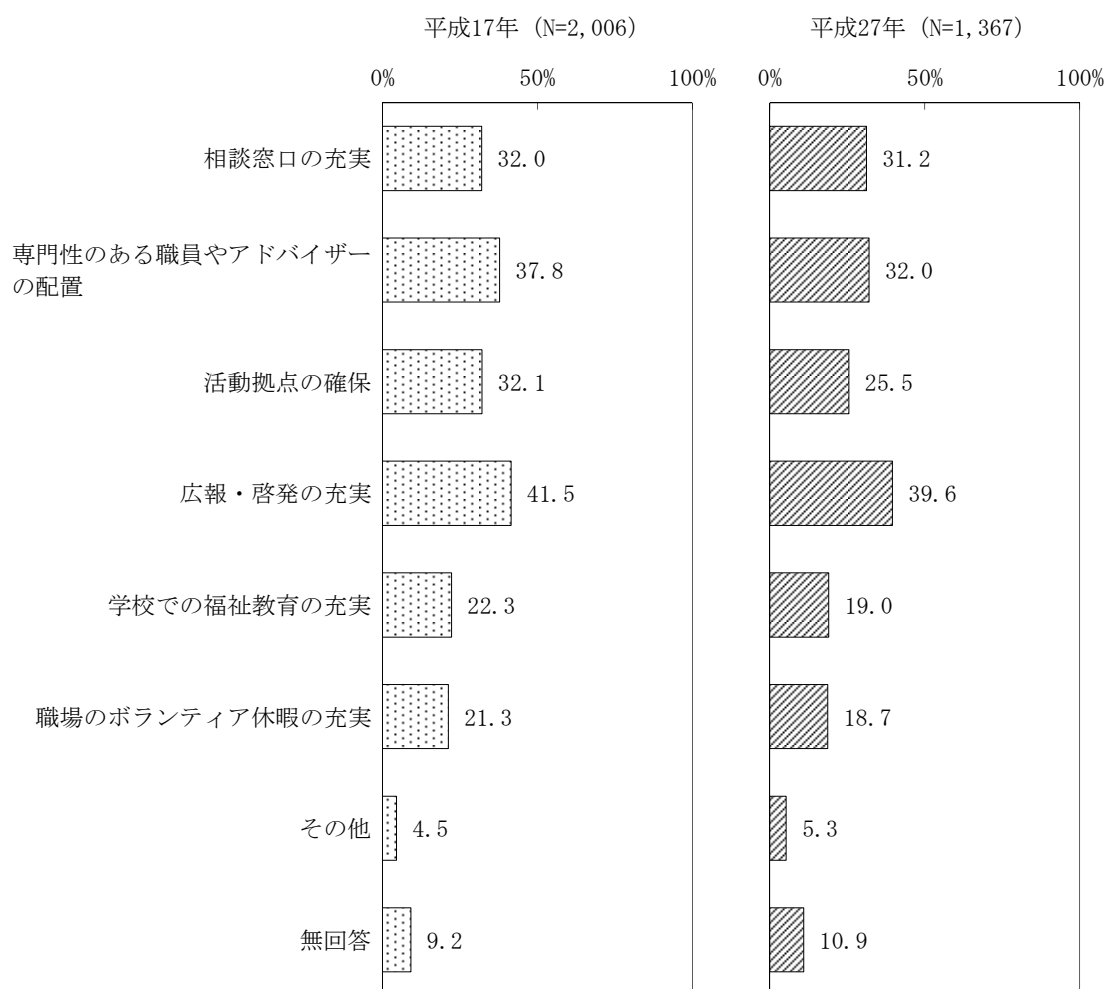
図表14 ボランティア活動に参加していない理由（複数回答）



(13) ボランティア活動を発展させるために必要なこと

ボランティア活動をさらに発展させるために必要な基盤整備や活動については、「広報・啓発の充実」が39.6%と最も高く、「専門性のある職員やアドバイザーの配置」「相談窓口の充実」も30%以上の比較的高い割合です。平成17年調査と比べると、同様の傾向にありますが、割合は全般的に低くなっています。特に「活動拠点の確保」「専門性のある職員やアドバイザーの配置」は5ポイント以上低下しています。

図表15 ボランティア活動を発展させるために必要なこと（複数回答）



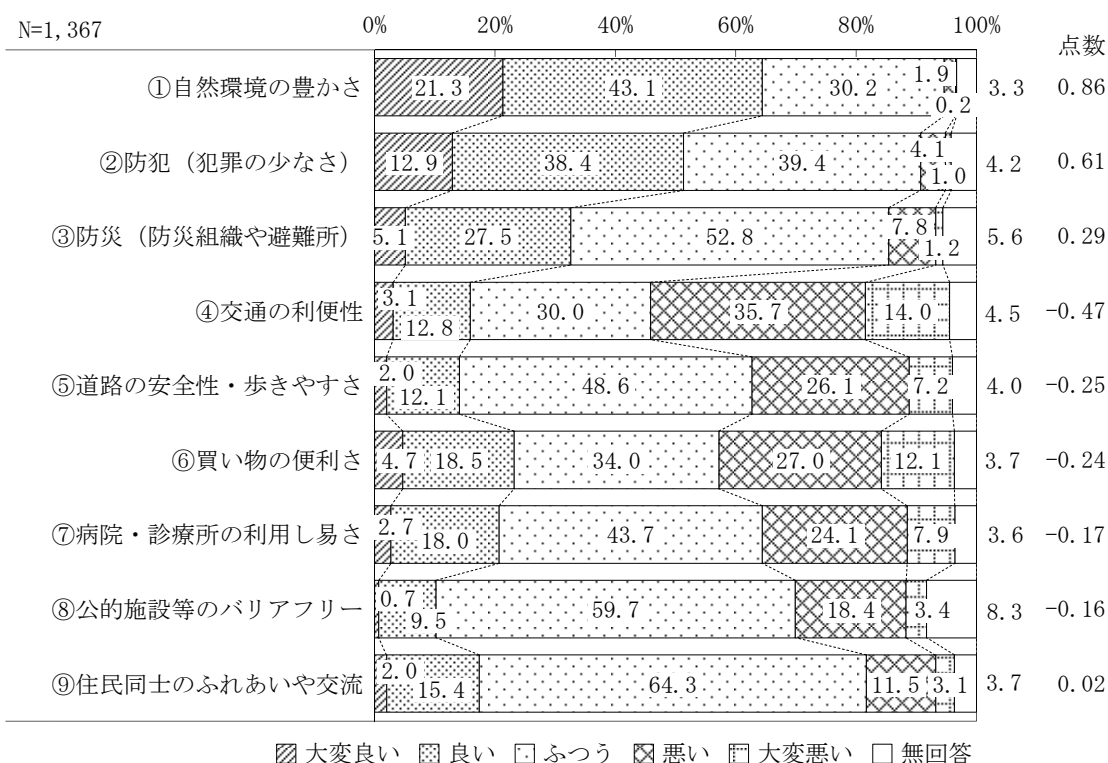
(14) 居住地区の生活環境

図表16は、住んでいる地域の生活環境9項目についてたずねたものです。「大変良い」と「良い」を合計した＜良い＞は、①自然環境の豊かさが64.4%と最も高く、②防犯（犯罪の少なさ）も50%を上回っています。一方、「悪い」と「大変悪い」を合計した＜悪い＞は、④交通の利便性が49.7%と最も高く、次いで⑥買い物の便利さ（39.1%）となっています。

点数をみると、①自然環境の豊かさが0.86と最も高く、②防犯、③防災、⑨住民同士のふれあいや交流を含めた4項目がプラスとなっています。

点数を平成17年調査と比べると、9項目中8項目の評価が高くなっています（図表17）。

図表16 生活環境の評価



（注）点数は、「大変良い」を＋2、「良い」を＋1、「ふつう」を0、「悪い」を－1、「大変悪い」を－2として計算した平均（以下同じ）。

図表17 生活環境の評価（平成17年調査との点数の比較）

項目	平成17年	平成27年	変化
①自然の豊かさ	0.81	0.86	↑
②防犯（犯罪の少なさ）	0.38	0.61	↑
③防災（防災組織や避難所）	0.09	0.29	↑
④交通の利便性	-0.36	-0.47	↓
⑤道路の安全性・歩きやすさ	-0.34	-0.25	↑
⑥買い物の便利さ	-0.30	-0.24	↑
⑦病院・診療所の利用し易さ	-0.27	-0.17	↑
⑧公的施設等のバリアフリー	-0.34	-0.16	↑
⑨住民同士のふれあいや交流	0.01	0.02	↑

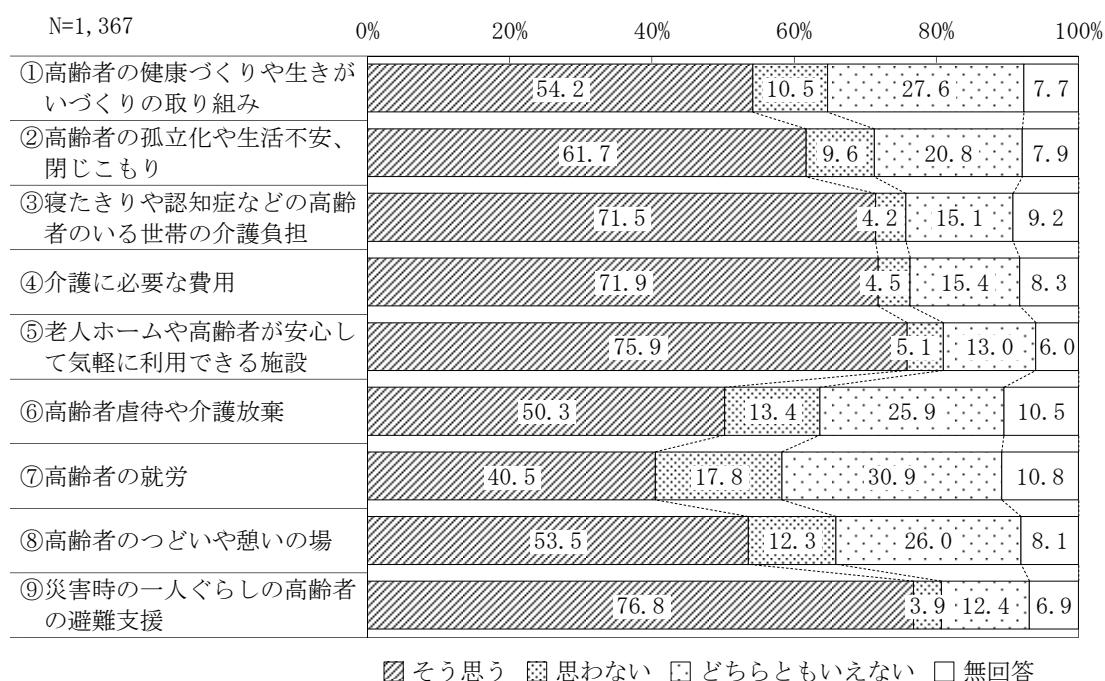
(15) 地域の課題

図表18～図表21は、「あなたのお住まいの身近な地域で、次の課題について、日頃から何とかしなければならないと思っていますか」という設問に対する回答です。高齢者分野、子ども・子育て分野、障がい者分野ごとに、それぞれ9項目、合計27項目の課題についてたずねました。

① 高齢者分野の課題

高齢者分野の9項目のうち、「そう思う」が最も高いのは、今回調査で新たに加えた⑨災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援の76.8%です。⑤老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設、④介護に必要な費用、③寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担も70%を上回っています（図表18）。

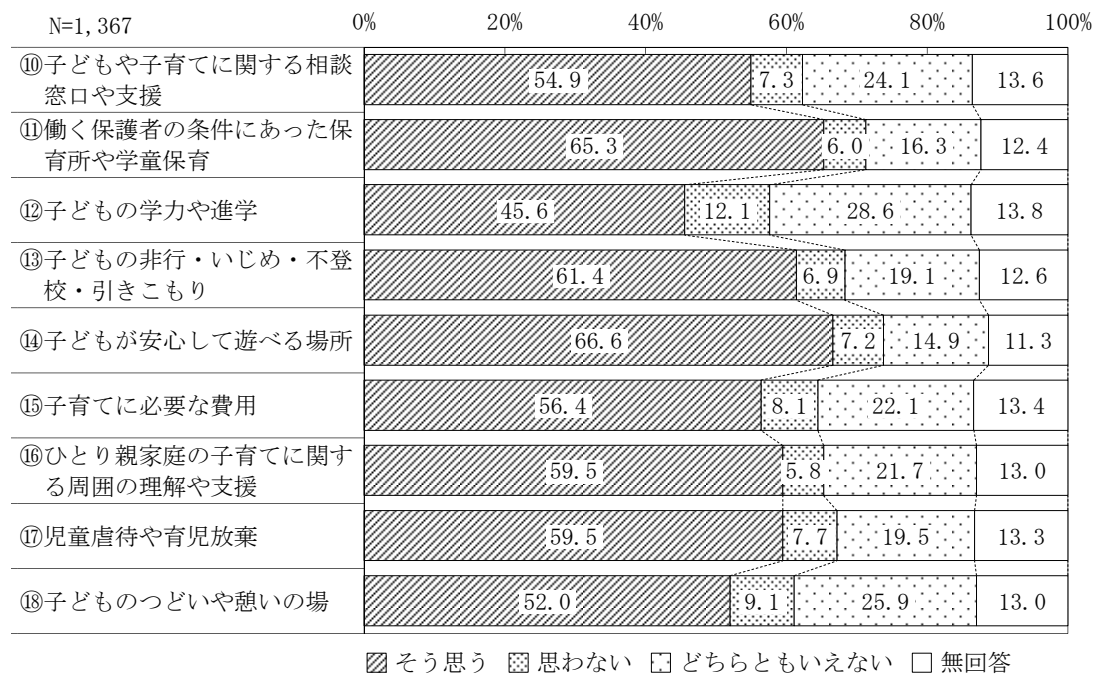
図表18 高齢者分野の課題



② 子ども・子育て分野の課題

子ども・子育て分野のうち、「そう思う」が高いのは、⑭子どもが安心して遊べる場所、⑪働く保護者の条件にあった保育所や学童保育で65%を上回っています。⑬子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり、⑯ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援、⑰児童虐待や育児放棄も60%前後の比較的高い割合となっています（図表19）。

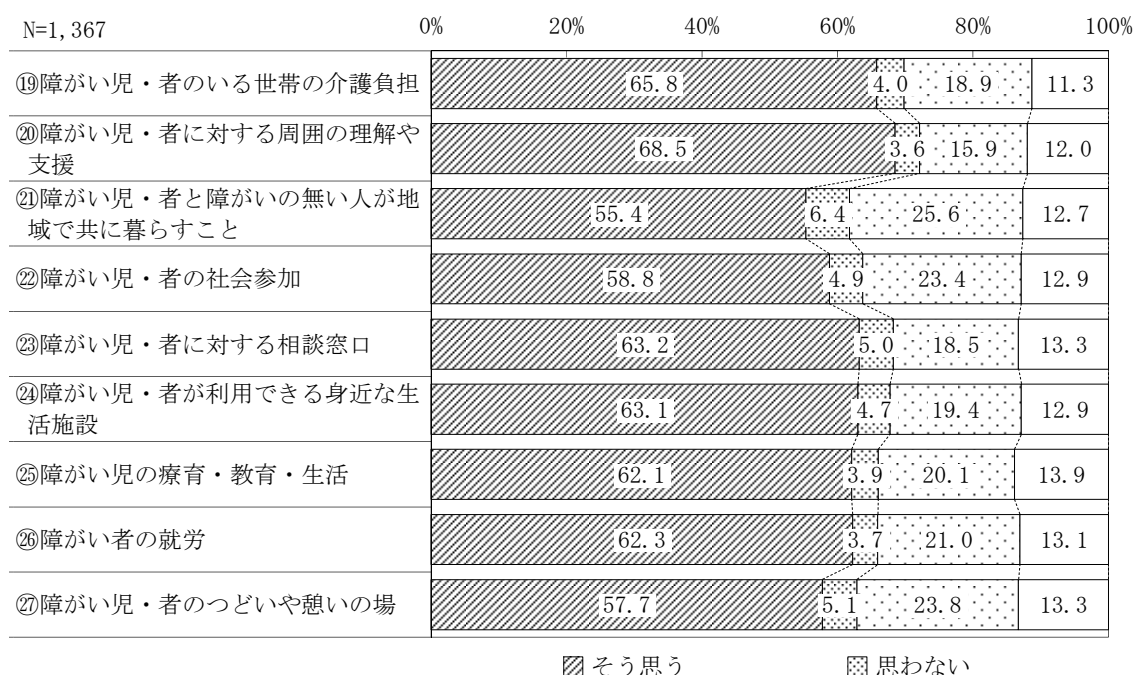
図表19 子ども・子育て分野の課題



③ 障がい児・者分野の課題

障がい児・者分野のうち、「そう思う」が高いのは、⑳障がい児・者に対する周囲の理解や支援、㉑障がい児・者のいる世帯の介護負担で65%を上回っています。㉓障がい児・者に対する相談窓口、㉔障がい児・者が利用できる身近な生活施設、㉕障がい者の就労、㉖障がい児の療育・教育・生活の4項目も60%以上です（図表20）。

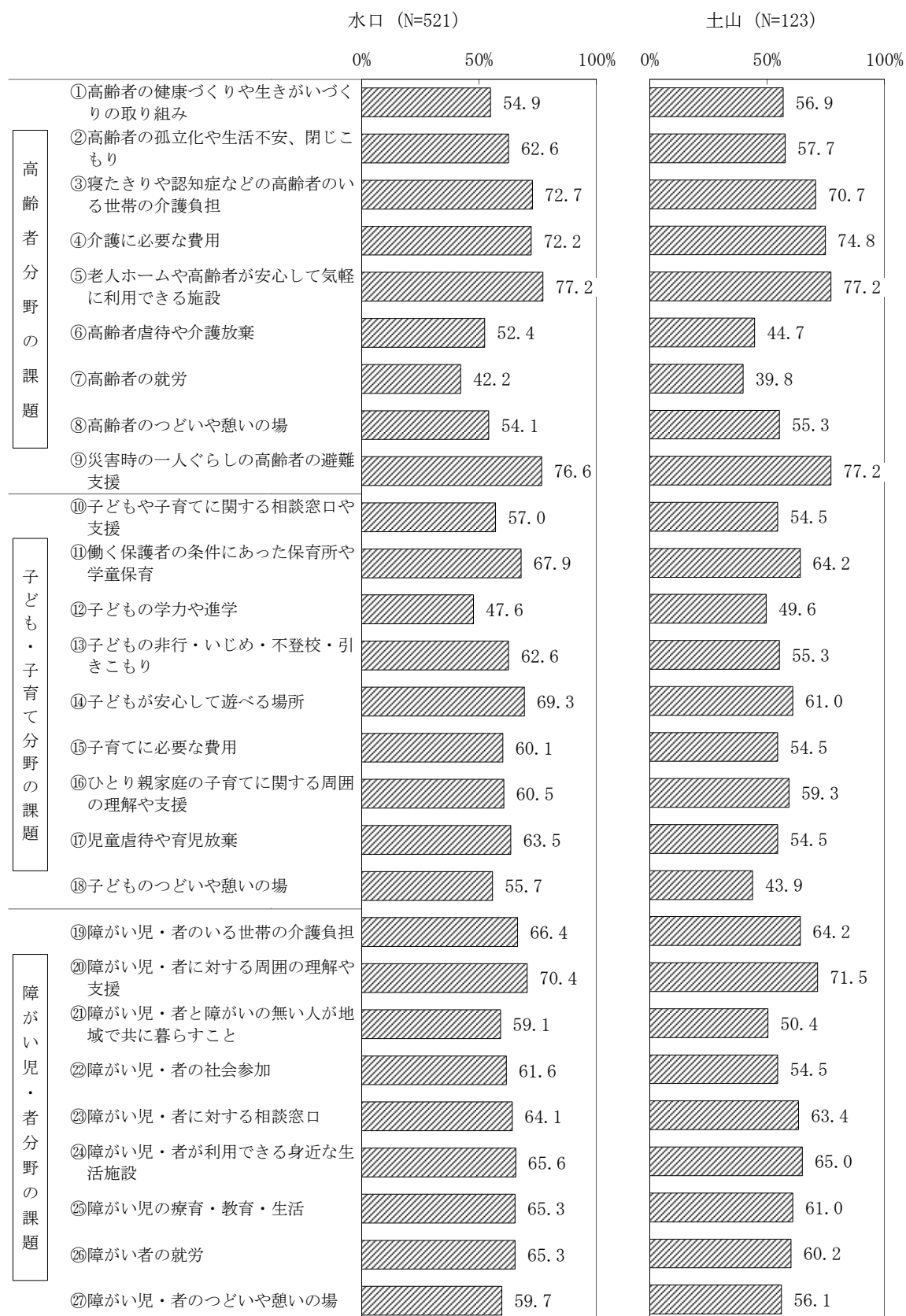
図表20 障がい児・者分野の課題



④ 地域別にみた課題

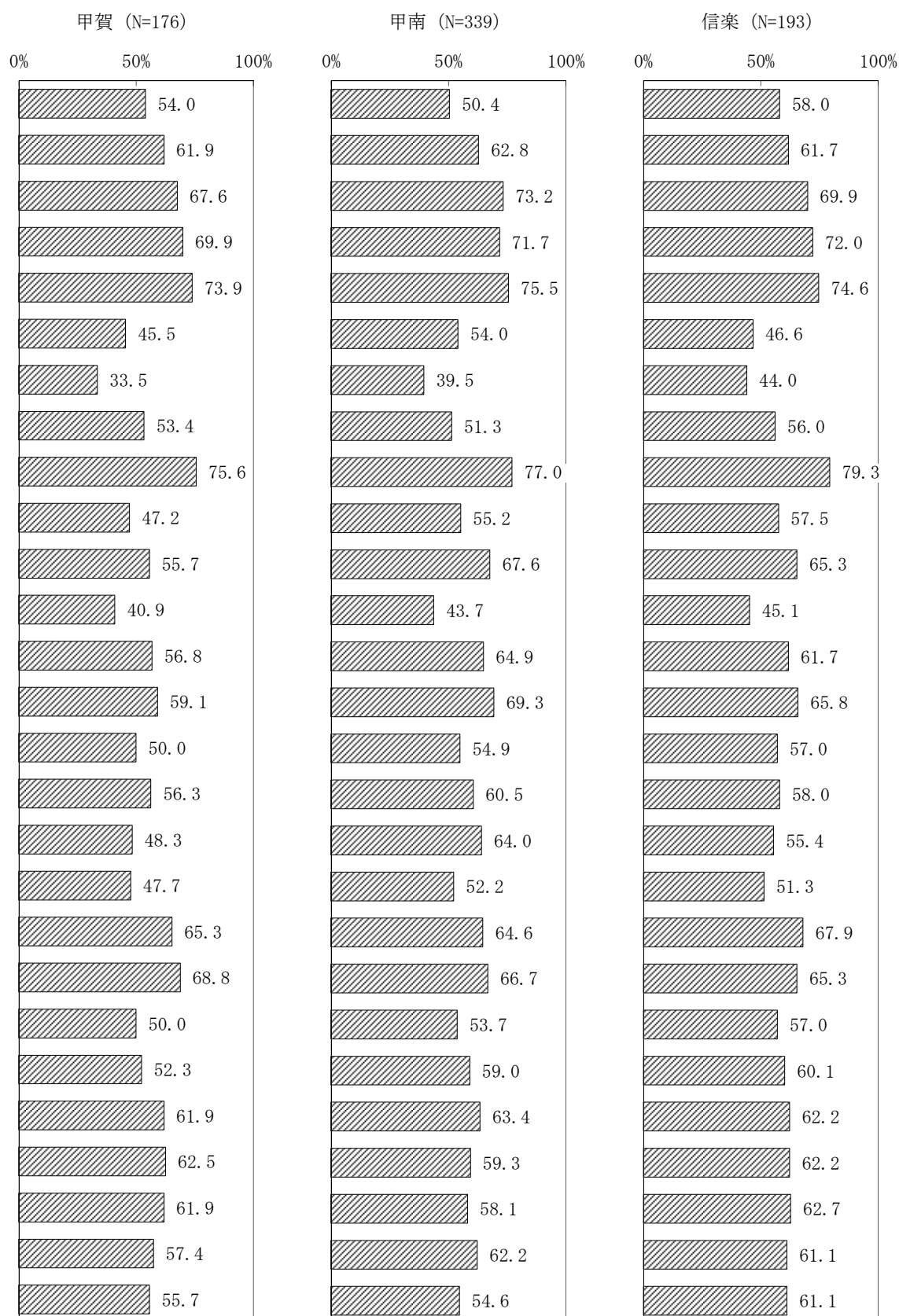
図表21は地域別に課題をみたものです。水口は「⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」が最も高く、甲賀、甲南、信楽は「⑨ 災害時の一人ぐらしの高齢

図表21 地域の課題（地域別、「そう思う」の割合）



者の避難支援」が最も高くなっています。土山は⑤⑨が同じ割合です。全般的に高齢者分野が高く、いずれの地域も上位3項目は高齢者分野の課題です。

そのほか、水口、甲南の「⑭ 子どもが安心して遊べる場所」、水口、土山の「⑳ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援」が70%前後の高い割合となっています。

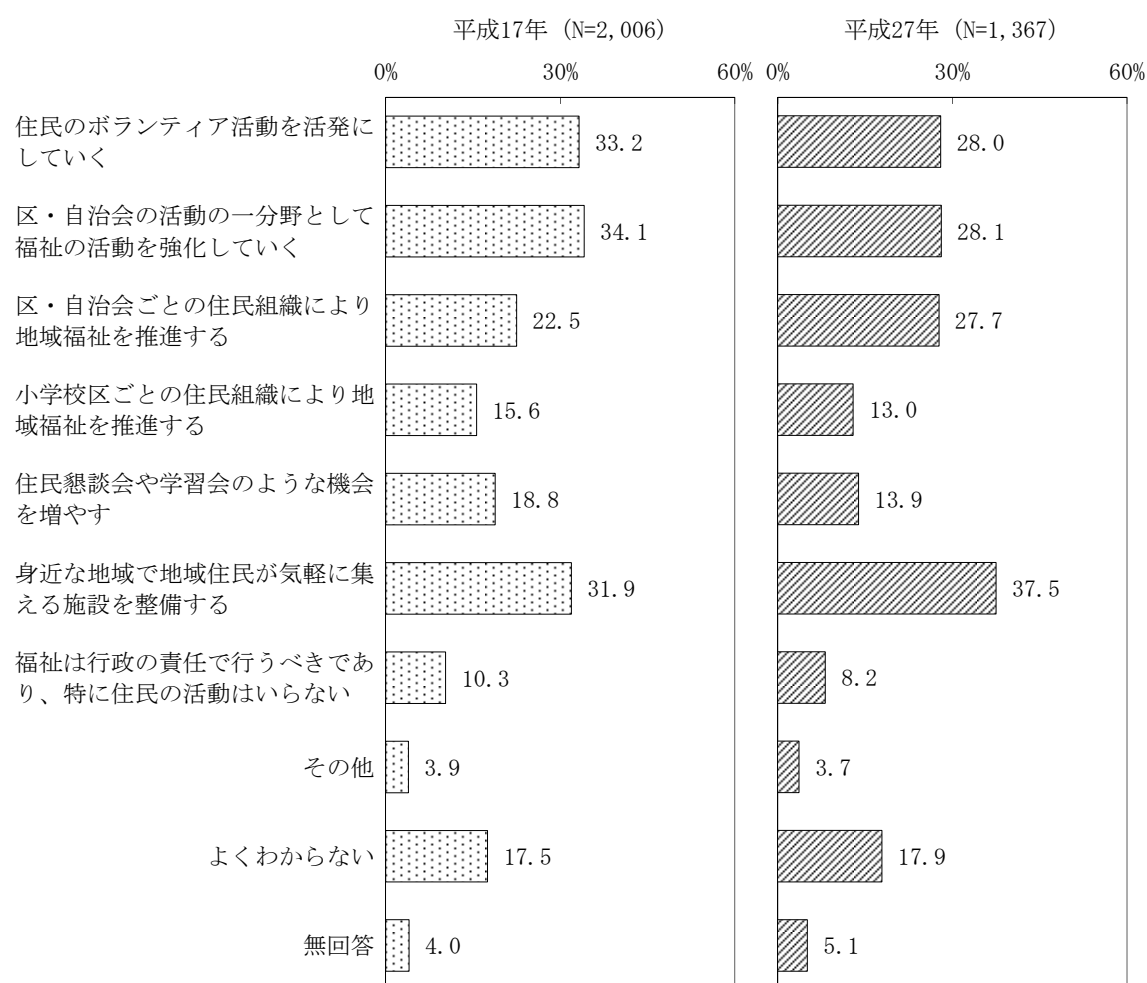


(16) 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと

「今後、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思いますか」という設問に対しては、「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が37.5%と最も高くなっています。「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」「住民のボランティア活動を活発にしていく」「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」も27～28%台の比較的高い割合です。

平成17年調査と比べると、「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」が5ポイント以上高くなり、その他の項目は割合が下がっています。5ポイント以上低下したのは「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」「住民のボランティア活動を活発にしていく」です。「住民懇談会や学習会のような機会を増やす」も4.9ポイント低下しています。

図表22 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと（複数回答）

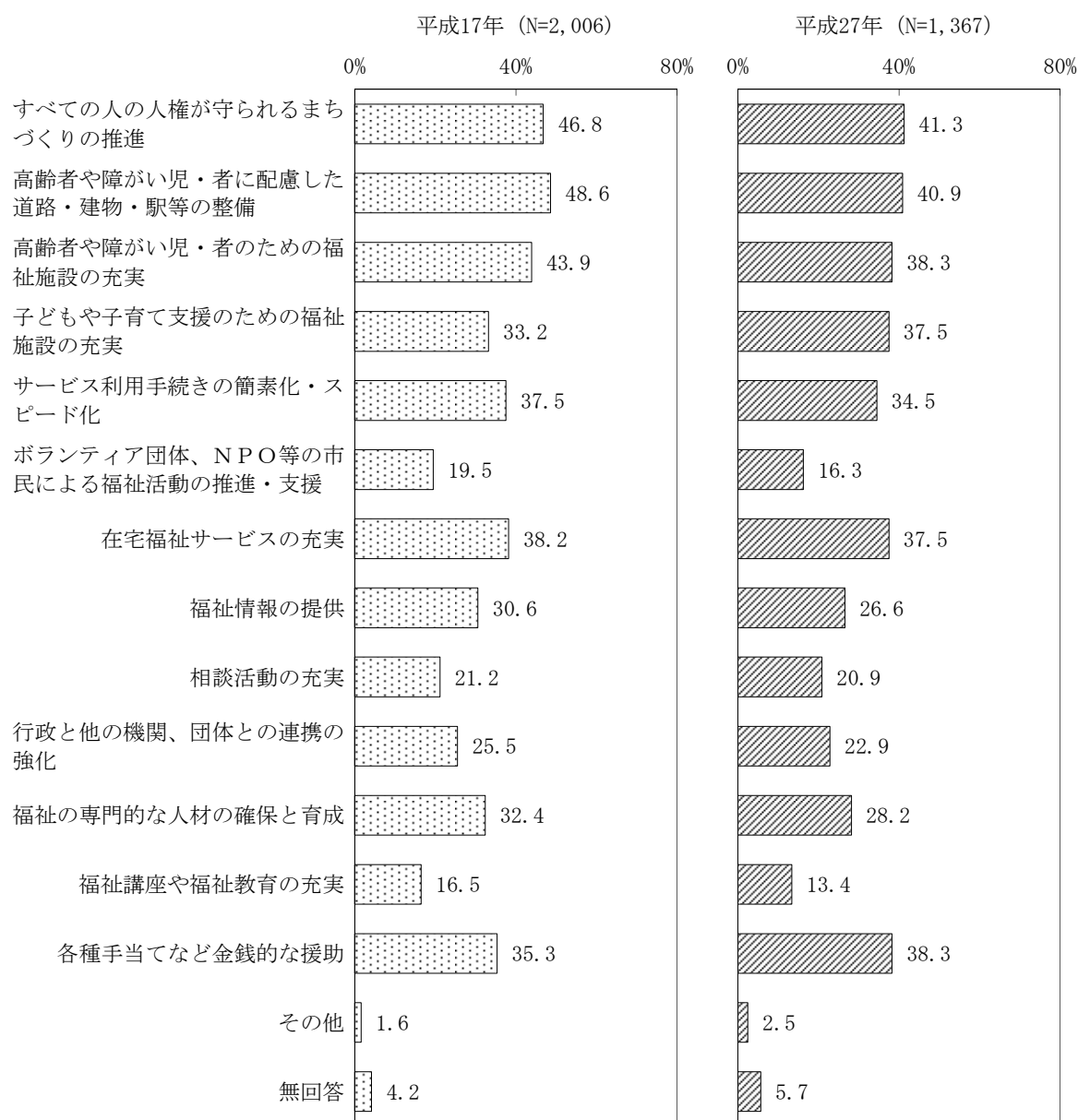


(17) 市が重点を置くべき福祉施策

甲賀市が重点を置くべき福祉施策としては、「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」「高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備」の2項目が40%以上となっています。また、「高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実」「各種手当てなど金銭的な援助」「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」「在宅福祉サービスの充実」も37～38%台で上位2項目と大きな開きはありません。

平成17年調査と比べると、全般的に割合が下がっています。高くなったのは「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」「各種手当てなど金銭的な援助」だけです。

図表23 市が重点を置くべき福祉施策（複数回答）



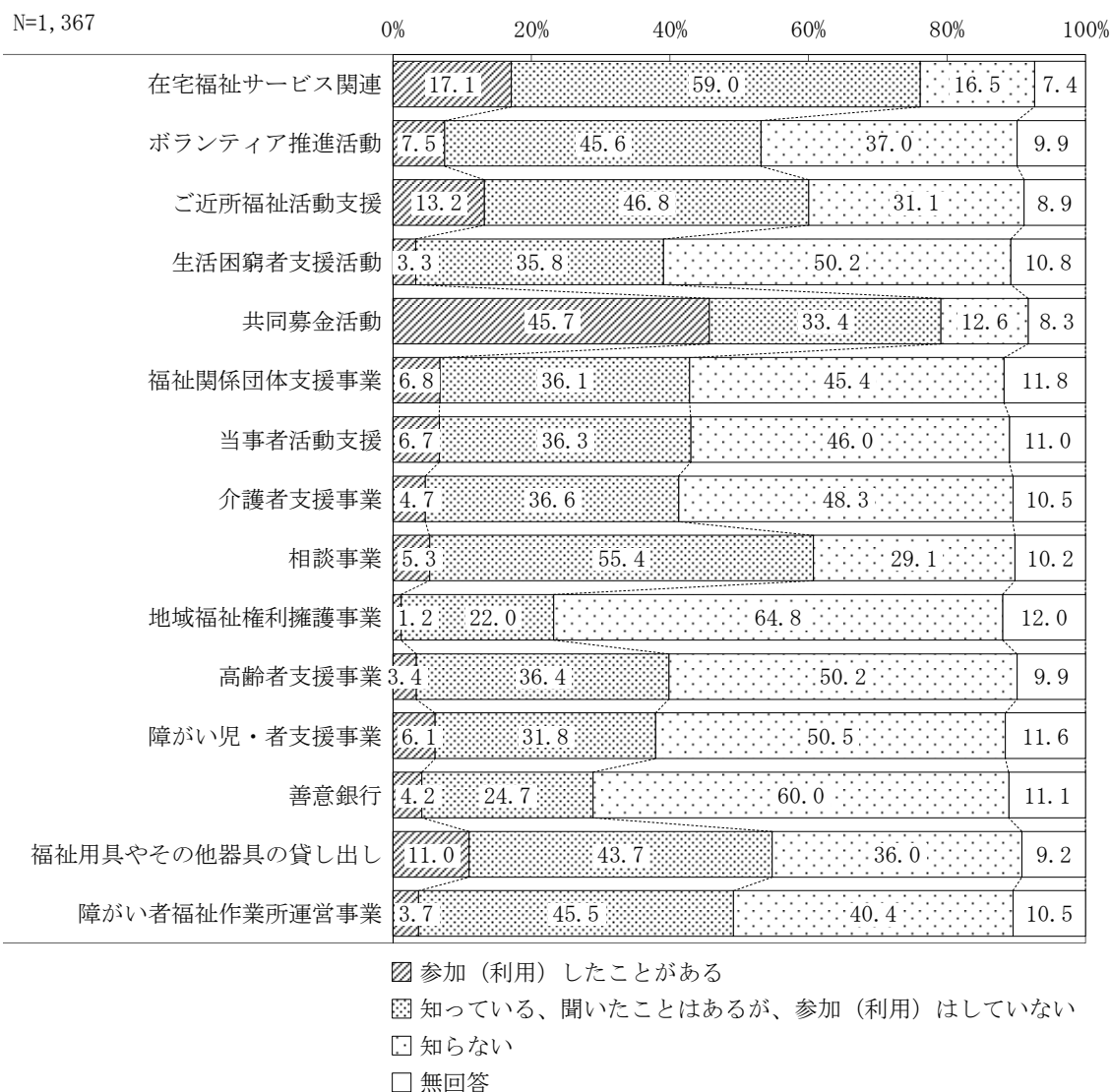
(18) 社会福祉協議会事業の認知度

図表24は、社会福祉協議会が実施している事業や活動の利用（参加）、認知度についてたずねたものです。

参加率（利用率）は、「共同募金活動」が45.7%と最も高くなっています。訪問介護・訪問入浴・訪問看護・通所介護・居宅介護支援事業などの「在宅福祉サービス関連」、ふれあいいきいきサロン・見守り支えあいネットワークなどの「ご近所福祉活動支援」、「福祉用具やその他器具の貸し出し」が10%台となっており、その他は8%以下です。

「参加（利用）したことがある」と「知っている、聞いたことはあるが、参加（利用）はしていない」を合計した認知度は、「共同募金活動」「在宅福祉サービス関連」が75%以上です。

図表24 社会福祉協議会事業の認知度



※地域福祉権利擁護事業：認知性高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が充分でない人に対して、福祉サービスの利用に関する相談・助言、必要な手続や利用料の支払いに関する支援等の事業。
 ※善意銀行：「人に役に立つことをしたい」という方から『善意のお金』『善意の品物』の寄付をいただき、これらの「善意」を必要に応じて福祉のいろんな分野で有効に活用する事業

(19) 社会福祉協議会の活動に期待すること

社会福祉協議会の活動に期待することとしては、「高齢者・障がい児・者などへの在宅福祉サービス事業」が55.8%と最も高くなっています。「支援を必要とする市民への個別支援」「何でも相談できる身近な場所づくり」「子どもや子育てへの支援事業」の3項目も40%を上回っています。

平成17年調査と比べると、「支援を必要とする市民への個別支援」が20.1ポイント高くなっています。「区・自治会福祉活動支援」「子どもや子育てへの支援事業」「介護保険事業の強化」も5ポイント前後高くなっています。一方、「ボランティア活動の推進」「高齢者・障がい児・者などへの在宅福祉サービス事業」は約5ポイント低くなっています。

図表25 社会福祉協議会の活動に期待すること（複数回答）

